

<文化庁助成>

長門美保歌劇団公演

# 和ルダッシユ姫

# Die Sardastfürstin

Kaoru Ohnina

まじめって やっほり

'82 12月22日(水)・23(木)P.M. 6:30

MIHO NAGATO OPERA CO.

大事で

ステキで

かえり

〈文化庁助成〉

# 長門美保歌劇団公演

本邦初演

# チヤルダッシュ姫

## CSÁRDAŠFÜRSTIN

E・カールマン曲・長門美保詞



Emmerich Kálmán E・カールマン

'82年12月22日(水)・23日(木) p.m.6:30

## 新宿文化センター

主催 長門美保歌劇団

共催 オペラ団体協議会

事務局 〒155 東京都世田谷区代田 2-21-12 ☎414-5265

Office 2-21-12 Daita Setagayaku Tokyo Japan

## 総監督 長門美保

### スタッフ

指揮／ヤン・ポッパー 演出・振付／江川 明・長門美保

美術／大野 泰 照明／小林英典・照井芳男

振付／江川 明 舞台監督／専修定雄

### キャスト

|               | 22日 (水)            | 23日 (木)            |
|---------------|--------------------|--------------------|
| チャルダッシュ姫(シルバ) | 溝 口 百合子            | 藤 井 多恵子            |
| エドウィン王子       | 井 上 善 策            | 稲 田 浩              |
| レオポルド侯爵       | 伊 藤 淳 一            | 伊 藤 淳 一            |
| 侯爵夫人          | 城 君 子              | 城 君 子              |
| スタージィ(伯爵令嬢)   | 菊 原 千 榮            | 沢 滋                |
| ボニー(王子の友人)    | 角 丸 裕              | 佐 藤 一 昭            |
| フェリィ叔父さん      | 古 沢 泉              | 佐 藤 貢              |
| 宮廷舞踊手         | { 長 門 美 保<br>江 川 明 | { 長 門 美 保<br>江 川 明 |

合唱／長門美保歌劇団合唱部

舞踊／江川明バレエ団

演奏／東京フェスティバルオーケストラ

合唱指揮／古沢 泉 舞監助手／須藤 誠

練習ピアノ／徳島純子・藤原雅子・牧野裕史

大道具／前進座大道具製作所 小道具／高津美術装飾・エトアール工芸

衣裳／松竹衣裳 かつら／丸善かつら 履物／エトアール工芸・神田屋

メイク／井上すみれ(ヘレナ・ルビンスタイン使用)



General Director Miho Nagato

総監督 長門美保

**皆様に、出演者から大きなリボンをつけたプレゼントを！**

歌に、踊りに、次々と美しく甘いメロディーが、心よく舞台一杯に繰りひろげられます。

どのメロディーも楽しく美しく、そして肩のこらない、しかもすぐ一緒に歌いたくなるメロディーのように心にひびきますが、どっこい仲々難かしく簡単にはいきません。なんともいえないワルツのテンポやメロディーは、歌手にとってはとてもとても難かしいものです。それだけに個性の出せる歌なのです。この微妙なニュアンスはワルツの一番難かしいところ、それがこのオペレッタの一番のき、どころです。

どうぞお歌いになりたいようなところがあれば、ご遠慮なく一緒に口づきで下さい。お客様には気軽にうたえます。

特に最後の歌はぜひ皆様とともに歌い上げてフィナーレをかざりたい希望ですので、どうぞよろしく……

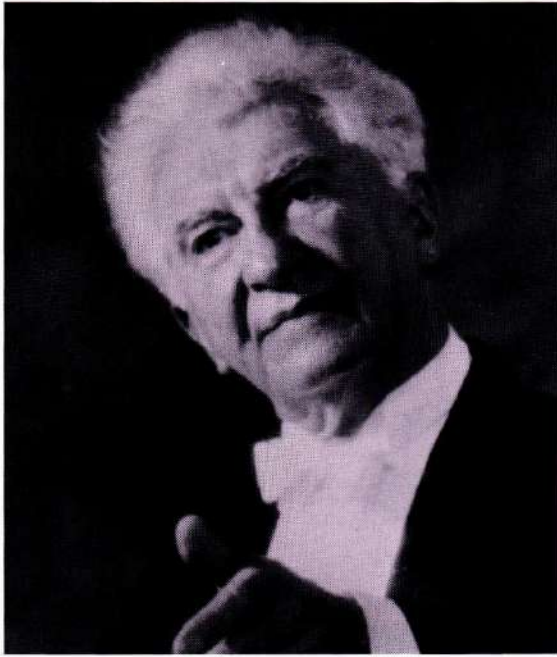
こんな美しいメロディーのオペレッタが、どうして日本に今迄紹介されなかったか不思議な位です。それだけにこの公演にも楽譜の心配から歌詞やセリフなど、本当に大変！ 私がウィーンでこの楽譜を見つけたばかりに今日この大変な苦勞をして、この初演が出来たわけです。

特に指揮者のポッパー先生は、今までにこのオペレッタを何回も手がけられていらしたのですが、私達は色々な点で心強く、又歌詞や台詞もこうしたオペレッタは心にくい程粋なものがあるので、日本語の表現には大変でしたが、これも渡辺忠雄氏にご協力いただき感謝しております。又演出の江川先生も根気よく歌手達を指導していただき、岡山にお住いの榎本辰郎氏も、最近のウィーン公演の資料等お送りいただき心暖まるご協力を沢山の方々からいただき厚く御礼申し上げます。

何しろ日本に楽譜さえ売っていないオペレッタを公演するのですから、本当にその苦勞たるや言語に絶するものがあり、こうしたことは表に出ないだけに皆様に申し上げてもご想像外のことと存じます。

でも今夕こうして関係者一同このオペレッタに打ち込み、精一杯歌い、踊り、楽しく「チャルダッシュ姫」を公演。皆様にプレゼント出来ます事は大きなよろこびでございます。

さあ、最後の歌を、みな様も一緒にどうぞ！



Conductor Jan Popper  
指揮 ヤン・ポッパー

I feel very privileged to have been asked by Madame Nagato to conduct the first Japanese performance of Kalman's Die Czardasfürstin because I know of no other operetta which contains such a wealth of charming and unforgettable melodies. No wonder that Richard Strauss called it "eine melodische Schatzkammer" (A treasure chamber of melody). Ever since its first performance at the Johann Strauss-Theatre in Vienna in October 1915, during the dark days of the First World War, this masterpiece of classical entertainment has triumphed not only in Europe but on most stages throughout the world.

To me personally it brings back memories of my earlier years in the theater: in central Europe a young conductor first must prove himself by conducting operettas before he is permitted to "graduate" to the musical direction of opera. This is a fine and valuable experience because operetta scores, such as to-night's score, are filled with difficulties of tempo changes and subtle melodic expression which provide a good training ground for the conductor of serious opera.

As you will notice at to-night's performance, Kalman was not only a master of writing music in the Hungarian style but he also was the creator of irresistible Viennese waltz tunes. It is my hope that all of you who feel uplifted by these famous melodies will be grateful to Madame Nagato for making your Holiday Season a happier one by offering this classical masterpiece to you!

カールマンの「チャルダッシュ姫」の日本初公演の指揮を、マダム長門から依頼されたことを大変光栄に思っています。と申しますのも、これ程魅力的な忘れることの出来ないメロディーに満ちたオペレッタは他にはないと思うからです。リヒアルト・シュトラウスがこのオペレッタを「メロディの宝箱」と呼んだのも当然のこととされます。第一次世界大戦の暗闇の中の1915年、ウィーンのヨハン・シュトラウス劇場で初演されて以来この古典的なエンターテインメントの傑作は、ヨーロッパだけでなく世界中の舞台上で大成功を収めているのです。

私個人にとっても、このオペレッタは、若い頃の劇場生活の思い出をよみがえらせてくれます。中央ヨーロッパでは、若い指揮者はオペレッタが完璧に指揮出来なくては、オペラの指揮はさせてもらえないのです。これはすばらしい有益な経験です。何故なら今夜お聞きのこのオペレッタのスコアには、オペラを指揮する上で基礎となる難かしいテンポの変化や、微妙なメロディーの表現が一杯だからです。

今夜の公演でよくおわかりのことと思いますが、カールマンは、ハンガリー風の音楽とウィーンワルツの美しいメロディーをたくみに生み出した名手なのです。さて、今夜この数々のよく知られたメロディーで、すっかり楽しくなってしまった皆様方、この古典オペレッタの傑作を通して、今年のクリスマスを、より楽しいものにしてくださったマダム長門に感謝しようではありませんか!

ヤン・ポッパー



Director Akira Egawa

演出 江川 明

オペラの全員がすっかりバレエを仕込まれ大変な努力。若い子等優しさとスタイリストの先生の魅力にすっかりまいり、歌うことよりバレエのケイコによく通った子が多い位。魅力とは恐ろしきものだ。本当にいい方、どうも全員を代表してお礼をいいます。

ミント・ティーの香りをおもてなし  
「フリアン」のおもてなし

フリアンはアーモンドとフレッシュバターを  
たぎらせた、やさしい味わいの焼き菓子  
ミント・ティーをそめて、お入りのおもてなしに  
ご贈りいただけます

BOX<10ヶ入…………… ¥1200  
BOX<15ヶ入…………… ¥1800

GIRAUD

ジロー・<sup>ジロー</sup>ファイヌ・レ・メソントフランス



チャルダッシュ姫 溝口百合子 (22日)  
Csárdásfürstin Y. Mizoguchi

オペラ初舞台 ケキレイシッタされて智恵熱が出る程 みなさま今後どうぞオペラが出来る様応援してあげてね



チャルダッシュ姫 藤井多恵子 (23日)  
Csárdásfürstin T. Fujii

オペラの虫 よき理解者ご主人の応援は大きい 今度の公演にも早速ウィーンに飛び観に行く熱心さ!

## あらすじ



### Act I

歌手シルバはアメリカへ出発する前に最後に彼女のファンや彼女をとりまく男性達の前で、歌って皆にもてはやされている。

彼女は特にウィーンの若い王子エドウィンに愛されている。しかしエドウィンは父君陛下の命令でシルバと別れ、父のもとへ帰らなければならないことになる。これを知って王子は短気を起し皆の前で、シルバと結婚するのだという誓約書を書いてしまう。しかし陛下は王子の知らない間に王子と若い伯爵令嬢スタージィとの婚約を発表してしまう。

シルバはアメリカに傷ついて去ってゆく。



エドウィン王子 井上善策 (22日)  
Edwin Z. Inoue

蟻ではないがこのチャルダッシュ姫の甘いメロディにぞっこんまいり、このオペラはなんとしてもテノールミョウリにつきるとばかりこうふん屋



エドウィン王子 稲田浩 (23日)  
Edwin H. Inada

オペレッタには初出演オペラと違い踊ったりラブシーンが多いので嬉しいが、頭が痛いのはセリフのハチオンにまいり気味

## Act II

令嬢スタージィは明るいよい娘のように見受けられたので、シルバはエドウィンのじゃまをしない事にして、一切手紙の返事を書かなかった。王子は親が秘密のうちに決めた婚約にいやいやながら承諾してしまう。

そこへ伯爵夫人と名のったシルバがウィーンへもどって来て王子の目の前に現れる。

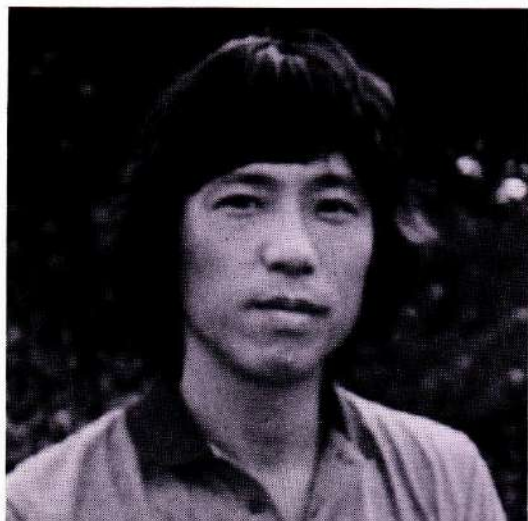
彼女の結婚は心からのものでなかった。彼女はジプシー・プリンセスと皆に呼ばれていた。彼女とエドウィンの愛は再び燃え上り、エドウィンは伯爵に妻シルバと離婚するよう、そして自分の婚約者スタージィと結婚したらよいとすゝめる。伯爵はもともとスタージィが好きだったので、事はいかんたんだった。

しかし陛下はいよいよ王子の婚約を公にひろうしてしまうのでエドウィンは怒るがどうにもならない。シルバは自分がエドウィンと結婚する権利をもっていると発言し、始めて自分の気持をあきらかにする。

## Act III

権威ある陛下も実はある伯爵から妻をうばいとった。そしてその妻はキャバレー歌手であった。という事が明るみに出て二人を許すことになる。幸せな二組のカップル（シルバとエドウィン、そしてスタージィと伯爵）が出来てハッピーエンド。





レオポルド侯爵 伊藤 淳一 (22日・23日)  
Leopold J. Ito

文学座の人でいつも私のオペレッタによく出る人。譜面をみない方がギターがよく弾けるという便利さ!



伯爵夫人 城 君子 (22日・23日)  
Madam Leopold K. Jyo

相手役が俳優の伊藤氏なので彼女も大張り切りで今度は歌より芝居で勝負! 苦勞のわりには目方があまりヘラナイ

## オペレッタの楽しみ

木村重雄

オペレッタという分野が、日本ではなんとなく馴染みにくい。おそらく西欧文明が移入された明治いらい、とかく日本人はアカデミックな芸術として、それを受けとめ有難がる傾向がつよく、娯楽性とか通俗性などと言うと、なにか軽くとらされそうな気配がうけとられるのが実状である。しかし、西欧文明のなかにも、決して芸術至上主義や権威的なアカデミズムから生まれた領域ばかりではなく、もっと身近かに親しめるものが多く育

っている。

オペレッタはその代表的な分野で、なによりも舞台を楽しむことに主眼がおかれている。オペラのように作品を鑑賞するのが目的ではなく、劇場で演じられる気の利いた運びによるドラマと、軽快な音楽を、俳優たちの芸を楽しむことがねらいで、たとえ演目そのものの題名などについては全く自由で心から、面白く楽しめる舞台を眼の前でくりひろげてくれるところに、その醍醐味がある。

最近ミュージカルが日本でも盛んになり、外国製の華やかな作品や、時には日本で作られたものまで、結構楽しめるところにまで達している。このミュージカルは、今世紀のはじめヨーロッパからニューヨークに移入された。たとえば〈メリー・ウィドー〉のようなオペレッタに示唆され、そ



スタージィ 菊原千栄 (22日)  
Stasi C. Kikuhara

張りキリ娘?すぐ風邪をひいてしまう。でも根っからのオペラ好きよく人の面倒をみてるまだひとり者ソロソロ相棒をさがしてやらねば……………



スタージィ 沢 滋 (23日)  
Stasi S. Sawa

あわて者がくると名前をみて先づ男性と判断するが教養のあるなしにかかわらず先づ男性と思われる事まちがいなく現在ひとり者 誰れか立候補しなさいという、女性が現われるおそれがある。

れが合衆国の風土に根をおろしてきたもので、本質的にはオペレッタそのものとは変りはない。したがってヨーロッパのオペレッタあるいは音楽を愛する人びとなら、当然のことながらミュージカルによりオペレッタに興味と関心がむけられて当然のことなのだが、日本ではそのオペレッタを飛び越えてミュージカルに話題が集中しやすい。ジャーナリスティックな焦点も、今日ニューヨークで流行しているということからミュージカルにあつめられがちであるが、日本でいま望ましいのは、娯楽性とか通俗性とかをもたした、気軽に楽しむことのできる劇場作品ということで、オペレッタとより多くのひとびとがふれあうことであろう。しかし、歌の技術はオペラに匹敵し、演技は商業劇場のそれとひとしく、かつ洗練された舞台を

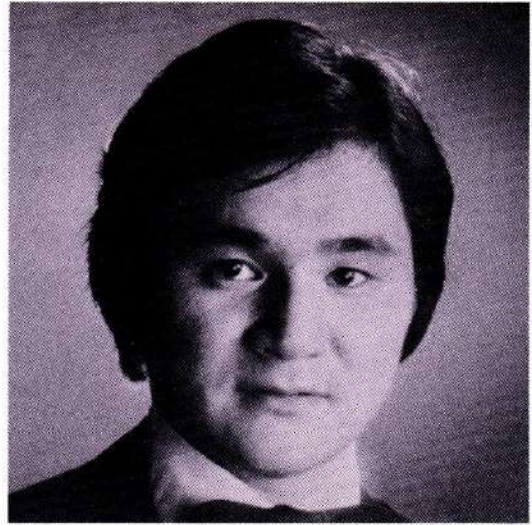
つくり出さねばならぬとなれば、そう容易にできるようなものではない。

「長門美保歌劇団」は創立してよりすぐにレパートリーに加えた〈ミカド〉をはじめ、〈ボッカチョ〉、〈天国と地獄〉、〈ベリコール〉、〈恋はバラ色〉など、他に沢山のオペレッタをきわめて積極的に取り組み今日に及んでいる。そうした40年余りの歴史と伝統をさらに生かし、他では出来ない、ますます楽しめるオペレッタの舞台づくりに力を。注ごうとしているのは心強いし、ここから日本のオペレッタの前途への正しい方向が生み出されることになるだろう。今回カールマン百年祭を記念しての日本初演は喜ばしいことであるしたいへんに意義の深いところである。



ボニー 角 丸 裕 (22日)  
Boni H. Kakumaru

芝居好きの人のよきどころか証券会社みたいな  
名前なので株でもやってボロ儲けでもうまい  
かと思われるがとんでもハッペンで誰れにで  
ても好かれる人



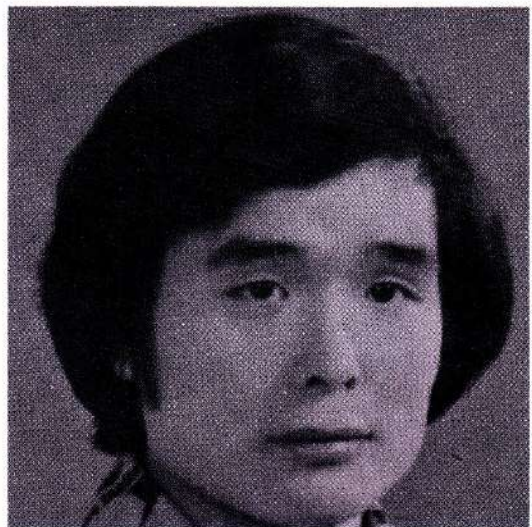
ボニー 佐藤 一 昭 (23日)  
Boni K. Sato

役が年より上なので若さが出て困っている  
植物を育てるのが上手だと女の子はどうか  
な？



フェリィ 古 沢 泉 (22日)  
Feri I. Furusawa

昨年留学からかえったばかりでセセコマシイ  
日本の生活にまだ戻り切れない人のよきドイ  
ツ語が得意なのでリハーサル中通訳で活躍し  
たごくろうさん！



フェリィ 佐藤 貢 (23日)  
Feri M. Sato

久々の抜てきで重い役なので無中で張り切っ  
ている。ふけ役なのにどうしても若さが出て  
困ってる状態 大いに伸びる事を願っている